

ブロックチェーン技術の活用可能性と課題に関する検討会（第2回）議事要旨

1. 日 時：平成29年3月8日（水）13時00分～14時00分

2. 議 題：検討会報告書について

3. 議事内容：

※ これまでの討議およびその後のメンバーからのコメントを踏まえた「ブロックチェーン技術の活用可能性と課題に関する検討会報告書」は、以下のURLをご参照。

<http://www.zenginkyo.or.jp/abstract/news/detail/nid/7672/>

- この取組みは、一昨年の金融審議会・決済業務等の高度化に関するワーキング・グループの報告書等で提言された決済高度化のアクションプランのひとつの項目として官民一体で取り組むテーマの一つであり、このようなかたちで報告書をまとめていただいたことは大変意義のあることだと思う。特に、実証実験に向けたブロックチェーン連携プラットフォームというものを提案いただいたことは、非常に素晴らしいこと。これを踏まえて金融インフラの部分についても、実用化も視野に入れて検討を加速していただきたい。
- この報告書を国際的にどのようにPRしていくかを含めて、国際的な検討において日本がリードできるように、各位の協力をお願いしたいと思う。
- 金融・決済のイノベーションと産業あるいはデジタルイノベーション全般とは、相乗作用がある。決済手段がイノベーションを起こすと、それを使った産業あるいは情報サービスでもイノベーションが起きる。お客様が発展することは、銀行にとってもビジネスチャンスが広がることになるため、そうした視点に留意して進めていただければと思う。
- ブロックチェーンは大きなデジタルイノベーションの波の一環であるため、デジタルイノベーションが進むような様々な制度整備についても進んでいくよう、政府にも要望していけばよいのではないかと思う。
- ブロックチェーン連携プラットフォームを検討されることは素晴らしいことだと思う。証券界でも業界連携型の実証実験を進めていこうとしているところであり、是非、将来的には連携できる分野で連携させていただきたい。
- ブロックチェーンの連携・取組みをしていくに当たっては、ある程度規模としては大きくなっていくと思うが、状況に合わせて適宜取組みを変える等、うまい舵取りが必要になってくると思うので、そちらにも留意いただいて検討を進めていただければと思う。

- 今後ブロックチェーンを検討するに当たって、技術的な観点から申しあげると、ビザンチン耐性とインターオペラビリティが重要である。インターオペラビリティに関しては、今後、規格の異なるレジャージャー間でもつながるブロックチェーンが出てくると考えており、具体化に向けては、そうした発展可能性も見据えつつ、検討を進めてほしい。また、ビザンチン耐性については、通信もしくはデータがうまく動いていない状況で、どうやってセキュリティを担保するかという議論も発展していくとよいと思う。
- ブロックチェーン事業者も本検討会の動きは非常に注目しているため、資料はよく公開していただけることを期待している。
- 中小銀行と取引する利用者においても、ブロックチェーン技術を活用した新しいサービスや利便性の向上の便益を享受できるよう、官民一体の取組みの推進に際しては、中小・地方銀行も参加できるように留意していただきたい。
- ブロックチェーン技術については、銀行業務・システムに変革をもたらし得る有力なテクノロジーとして、新しいサービスの提供あるいは銀行業務の抜本的な効率化を図るうえでも、今後、重要な選択肢になってくる。実用化に向けては、様々な課題があるのは事実だが、これをひとつひとつ解決していくことが重要。そうした観点から、官民の関係者の連携による「7つの取組み」を提言いただいた。おそらく官民が一体となつてこうした取組みを進めることは、世界でも例のない画期的なこと。銀行界としても官民一体となつたこの取組みを活用し、ブロックチェーン技術を利用者利便の向上、そして日本経済の発展につなげていくべく努力をしていきたいと考えている。

以 上